



南陽市議会議長 遠藤榮吉 殿

無会派 津島衛門

令和 7 年度 会派先進地等調査の報告について

このことについて、次により先進地等調査を実施いたしましたので、南陽市政務活動費に関する内規第 4 条の規定により報告いたします。

項 目	調査・研修内容
調査期日	令和 7 年 9 月 2 4 日(水)から 2 6 日(金)まで 2 泊 3 日
調査場所	① 福岡県添田町議会 ② 佐賀県佐賀市 株式会社かわでん
調査目的	① 日田彦山線の BRT に関する町の取組みについて ①② 株式会社かわでん 九州工場の現地視察について
調査概要	<p>① 日田彦山線の BRT に関する町の取組みについて</p> <p>「2017 年 7 月 九州北部豪雨」により被災した日田彦山線添田駅～夜明・日田駅間は、2023 年 8 月 28 日から BRT(バス高速輸送システム)で運行している。</p> <p>九州旅客鉄道 (JR 九州) が事業主体となり JR 九州バスが運営するバス高速輸送システム (BRT) である。愛称は「BRT ひこぼしライン」。</p> <p>ひこぼしとは日田「彦」山線の「星」になるようにという意味である。</p> <p>走行区間は添田駅～夜明・日田駅(約 40km)で内専用道区間は彦山駅～宝珠山駅(約 14km)となっている。</p> <p>鉄道で復旧する場合に上下分離方式の導入を求める JR 九州側と、費用負担に難色を示す沿線自治体の間で協議が難航し、復旧に着手されない状態となっていたが、2020 年 7 月に一部区間の線路敷をバス専用道路に転用して運行する BRT の導入で自治体と合意した。</p> <p>工事は JR 九州が約 26 億円を負担したほか、橋梁 2 箇所は福岡県が負担している。</p> <p>開業後は引き続き JR 九州が事業主体として土地や車両の保有を行う一方、経営と運行管理は子会社の JR 九州バスが担当し、また運行の一部については日田バスに再委託している。</p> <p>2022 年 8 月の集中豪雨により被災した米坂線は、今泉駅 - 坂町駅間が長期に渡り運休となっている。フラワー長井線も民営化で苦しい経営状況が</p>

	<p>続いている。この打開策としてBRTの検討が必要ではないだろうか。</p> <p>地域住民の交通弱者の声を一刻も早く解決するために私たち議員ができることは…</p> <p>② <u>株式会社かわでん 九州工場の現地視察について</u></p> <p>株式会社かわでん（英: KAWADEN CORPORATION[3]）は、配電の制御設備を製造している電気機器メーカーで、創業者である川崎勇が目黒区にて創業するが、戦時疎開のため郷里の中川村（現・南陽市）に工場を新築し、本社を移転。1962年12月には、山形県に本社を置く企業として初の上場企業となっており、2026年3月に100周年を迎える。</p> <p>従業員数は、会社全体では約800名、九州工場では約190名で業界ナンバーワンからオンリーワンを目指している。</p> <p>今年上山市の産業団地に移転計画を発表し、本市民より大きな不安を持たれており、九州工場を視察することで、今後の拠点整備の計画等を学ぶこととした。</p> <p>代表取締役会長の相澤利雄氏のほか専務・常務の出席を受け、今後の計画を聞きながら(株)かわでんの創業者の想い（中川の人々の暮らしの安定に貢献する）を現在もそして今後も変わらず継続することへの強い意志を確認し、保守公明クラブ会派とともに議会人として最大の応援をしたいと心に刻んだ視察となった。</p>
<p>その他</p>	